NEW JAPAN PHILHARMONIC
SUMIDA, TOKYO

新日本フィルハーモニー交響楽団
2024/2025シーズン

# 4

April, 2024

YUTAKA SADO

2024/2025 シーズン
新日本フィルハーモニー交響楽団 4月演奏会

Contents


すみだクラシックへの扉 #22　小室敬幸　3

トリフォニーホール・シリーズ／サントリーホール・シリーズ #655　石川亮子　9

メンデルスゾーン：『夏の夜の夢』 歌詞対訳　16

楽員ストーリーズ ㊵　太田友香（クラリネット）　19

NJP from Inside　20

2024 / 2025シーズン　定期演奏会プログラム　22

NJP 5月公演　柴田克彦の鑑賞ポイント　29

お客様からの声　31

室内楽シリーズ　33

「パトロネージュ・システム」のご案内　38


■特別支援企業

オリックス
鹿島
CCC
大和証券
東京東信用金庫
NOMURA
フジサンケイグループ
三井住友銀行

■特別支援団体

公益財団法人 オリックス宮内財団

特別支援企業／団体は、新日本フィルの運営を支援しています。

〈コンサートの感想をお寄せください〉

演奏会終了後1週間以内にご回答いただいた方の中から、抽選で10名様に新日本フィルオリジナルグッズをプレゼント！

QRコードを読み込み、WEBにてお答えください。プレゼントの当選者にはメールにてご連絡させていただきます。culture@njp.or.jpからのメールが受信できるようご設定をお願い致します。

https://forms.gle/pgWSTF1gooyVLG9t8

いただいたお声は次号以降の定期演奏会プログラムでご紹介させていただく可能性がございます。ご了承ください。

〈ご来場のお客様へのお願い〉

SUMIDA TOBIRA of classic 2024-2025 Season #22

# 4.12[金] 13[土]

## すみだクラシックへの扉

新日本フィルハーモニー交響楽団 定期演奏会 すみだクラシックへの扉 第22回

2024年4月12日(金) 14時00分 すみだトリフォニーホール
4月13日(土) 14時00分 すみだトリフォニーホール

◉ チャイコフスキー（1840–93）

### ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op. 23 *　約35分

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Piano Concerto No. 1 in B-flat minor, op. 23 *

Ⅰ. Allegro non troppo e molto maestoso – Allegro con spirito
Ⅱ. Andantino semplice – Prestissimo
Ⅲ. Allegro con fuoco

―― 休憩20分 ――

◉ チャイコフスキー

### 交響曲第5番 ホ短調 op. 64　約50分

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Symphony No. 5 in E minor, op. 64

Ⅰ. Andante – Allegro con anima
Ⅱ. Andante cantabile, con alcuna licenza
Ⅲ. Valse: Allegro moderato
Ⅳ. Finale: Andante maestoso – Allegro vivace

［指揮］佐渡 裕
Yutaka Sado, Conductor

［ピアノ］角野隼斗 *
Hayato Sumino, Piano *

［コンサートマスター］崔(チェ)文洙／伝田正秀
Munsu Choi & Masahide Denda, Concertmaster


■主催：公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団
■共催：すみだトリフォニーホール
■助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））
独立行政法人 日本芸術文化振興会


アラーム付時計、携帯電話等をお持ちのお客様は、演奏中に鳴らないようお確かめください。
演奏途中でのご入場、場内での録音および撮影はかたくお断りいたします。

文化庁

# Profile

©Takashi Iijima

## 佐渡 裕［指揮］ Yutaka Sado, Conductor

京都市立芸術大学卒業。故レナード・バーンスタイン、小澤征爾に師事。1989年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。パリ管弦楽団、ロンドン交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団など欧州の一流オーケストラに多数客演。現在オーストリアのトーンキュンストラー管弦楽団音楽監督、兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウインド・オーケストラの首席指揮者を務める。CDリリースは多数あり、最新盤としてトーンキュンストラー管を指揮した19枚目のCD『マーラー：交響曲第4番』を2024年1月にリリース。著書に『僕はいかにして指揮者になったのか』（新潮文庫）、『棒を振る人生〜指揮者は時間を彫刻する〜』（PHP文庫／新書）など。2022年4月「すみだ音楽大使」、23年4月新日本フィルハーモニー交響楽団第5代音楽監督に就任。
オフィシャルファンサイト：http://yutaka-sado.meetsfan.jp

©RyuyaAmao

## 角野隼斗［ピアノ］ Hayato Sumino, Piano

2018年、東京大学大学院在学中にピティナピアノコンペティション特級グランプリ受賞。2021年、ショパン国際ピアノコンクールセミファイナリスト。これまでにポーランド国立放送響、ボストン・ポップス、ハンブルク響、N響、読響など、国内外のオーケストラと多数共演。CASIO電子楽器アンバサダー、スタインウェイアーティスト。“Cateen（かてぃん）”名義で活動するYouTubeチャンネルは登録者数が130万人超、総再生回数は1億回を突破。海外での活動も増え、ブルガリア、ブダペスト、パリ、ウィーン、ポーランド、シンガポール、台湾、韓国などにて公演を開催し、現地の観客から称賛を得ている。現在は、拠点をニューヨークに移すなど、世界各地で活動を行っている。2024年、ベルリンに本拠を置くSony Classicalと専属レコーディングのワールドワイド契約を締結。クラシックのピアニストとして確固たる位置を築く一方、ジャンルの垣根を越えた音楽の探究心で知られる、唯一無二のピアニストとして注目を集めている。
https://hayatosum.com/



# Program Notes ◉小室敬幸［音楽ライター］

いよいよこの金曜・土曜から新日本フィルの2024/2025シーズンが始まった。プロのオーケストラは定期演奏会のプログラムを1年間（シーズン）ごとに発表するのが通例だが、そのはじまりを何月にするかは、団体によって判断が異なる。9月はじまりは欧米に足並みを揃えたスタイルで、近年は年をまたがない1月はじまりのオーケストラも出てきた。

日本における4月はじまりの1年周期は、歴史をさかのぼると1886年（明治19年）から施行された法律によって会計年度が4〜3月になったのが最初だ。しかしながら4月はじまりとなった理由は何だったのか？ 諸説あるが、明治大学法律研究所の『法律論叢』に収録された柏崎敏義による論説によれば、当時の大蔵省による赤字を埋めるために翌年分納される酒造税の一部を繰り入れた。その財政上の辻褄をあわせるために法律の方を変えたというのだ。学校年度が4月からはじまるのもそれに合わせたに過ぎないそうで、意外かつしょうもない由来に驚かされる。だが春のはじまりであり、桜が咲き、そして瞬く間に散ってゆくこの4月に、私たちは何か特別なものを見出してしまうのだろう。

### ■ チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23

ニコライとの出会い ►

ピョートル・チャイコフスキー（1840〜93）は19歳から法務省で働きはじめたが、音楽の道を諦められず、22歳頃からペテルブルク音楽院に通い出す。ここで世話になったのが院長のアントン・ルビンシテイン（1829〜94）だ。卒業後はアントンの推薦で、彼の弟ニコライ・ルビンシテイン（1835〜81）の部下として1866年からモスクワ音楽院で教え出した。気さくなニコライはプライベートでもチャイコフスキーの面倒をみる良い上司だったようだ。

作曲にまつわるエピソード ►

1874年秋、優れたピアニストでもあるニコライを独奏者に想定して、チャイコフスキーは初めてのピアノ協奏曲を書きはじめる。年内に書き上げた2台ピアノ版をニコライに聴かせてみると、2〜3ページ以外は書き換えるか捨てるしかないと予想だにしない酷評が返ってきた。大きなショックを受けたチャイコフスキーだったが、ニコライの意見は無視してオーケストレーションを約2ヶ月で完成させる。

初演、再演の成功 ►

代わりに独奏を引き受けてくれたのはリストの弟子であるドイツ人のハンス・フォン・ビューロー（1830〜94）。以前からチャイコフスキーを高く評価し、ピアノ曲をレパートリーにしていた彼はこの協奏曲の楽譜を渡されると、作品を絶賛。1875年10月にボストンで初演し、翌11月にはニューヨークでも演奏して聴衆の大熱狂を引き起こした。そうした評判を受け、ニコライも後に考えを改めて自ら何度も演奏をおこなったというが、チャイコフ

スキーは過去の遺恨を許しておらず大いに皮肉っている。チャイコフスキーは、かなり粘着質な性格なのだ。

曲の構成と音楽の特徴 ►

**第1楽章**　序奏付きのソナタ形式。作品全体の半分以上の長さを占める楽章だ。あまりに有名な旋律が変奏されてゆく序奏が終わると、跳ねるようなリズムをもつ物悲しい第1主題（ウクライナ民謡の変奏）をピアノが奏でるところから本編がはじまる。対比されるのは、木管楽器による哀願するような第2主題だ。ピアノ独奏による美しいアルペジオ（分散和音）で一旦音楽が落ち着くと、その後からが展開部。これまで登場してきた旋律が絡み合いながら、更なるドラマを築き上げてゆく。再現部は短くまとめられており、ピアノ独奏のカデンツァが続く。

**第2楽章**　三部形式。ゆったりとした主部は緩徐楽章で、ノスタルジックな旋律をフルートが先導する。速くなる中間部は実質的にはスケルツォで、ピアノが駆け巡る軽やかな音楽で主部とのコントラストを生み出す。

**第3楽章**　ソナタ形式とロンド形式をかけ合わせた自由な形式（ただしロンド・ソナタ形式ではない）。春の訪れを告げるウクライナ民謡に基づく第1主題と、抒情豊かな第2主題が交互にあらわれて変奏し、盛り上げてゆく。クライマックスではオーケストラとピアノが渾然一体となって第2主題を高らかに歌い上げる。

ちなみに現在演奏されているのは2度改訂を加えた第3版（1889年版）。第1～2版において第1楽章冒頭のピアノは、ハープの優雅なアルペジオのように書かれていた。第3版はチャイコフスキーにとっては弟子にあたるアレクサンドル・ジロティ（1863～1945／ラフマニノフの従兄）の意見を反映させたことで、ピアノが力強く和音を響かせるようになったのだ。

［楽器編成］ピアノ独奏、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽5部。

## ■ チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 op.64

自信作4番を経て ►

チャイコフスキーの人生と創作を語る上では、恋愛も欠かせぬ要素だ。遺された手紙などから、彼の恋愛対象は主に男性であったことが明らかになっているが、当時、同性愛は完全なるタブー（禁忌）。世間体を気にして結婚を考えていたチャイコフスキーのもとへ1877年4月、名家の令嬢であるアントニーナから熱烈な恋文が届く。チャイコフスキーは思い悩んだ末、3ヶ月後に式を挙げたが、それから20日で別居。精神的に追い詰められてしまうも、この困難を乗り越えて書いた交響曲第4番（1877）は作曲家自身にとって自信作となった。



創作力の枯渇と向き合いつつ ►

ところが第4番の11年後に完成した交響曲第5番（1888）に関して、創作力の枯渇に悩まされたチャイコフスキーは、断筆や死も考えるほど追い込まれながら作曲。その上、1892年に偉大な指揮者アルトゥール・ニキシュによって見事な解釈が披露されるまで、本作に自信をもてなかった。どうやら1887年10月に亡くなった数少ない親友の看病を通して、10年以上前に自殺した愛する男性や自らの死を意識するようになり、死生観や宗教観に変化があったようなのだ。

5番のテーマとは？ ►

交響曲第4番はパトロン（スポンサー）に宛てた手紙で解説されていたように、自らを不幸へ導く「運命（destinyではなくfate）」にどう向き合うか？という物語が背景になっていた。一方の第5番では明言こそされていないが、遺された資料から「人間が完全に服従せざるを得ない神の導き（≒運命）」によって近づいてくる死とどう向き合うか？……をテーマにしていたのではないかと、考えることも出来る。

曲の構成と音楽の特徴 ►

**第1楽章**　序奏付きのソナタ形式。クラリネットで冒頭に提示される葬送行進曲のような旋律は「運命の主題」と通称されており、死へと向かう運命の力を象徴しているのだろう。音楽が前へと進みだすと、まずは物悲しい第1主題、次いで優しくあたたかな第2主題が登場。両者が拮抗する様は、運命に抗う人間を想起させる。

**第2楽章**　緩徐楽章で三部形式。作曲者の草稿によれば、ホルンの美しい旋律は慰めであり、一筋の光であるという。宗教に救いを求めるが、自らの恋愛志向は受け入れられず……。苛烈な「運命の主題」が再びあらわれてしまう。

**第3楽章**　舞曲楽章で三部形式。ドイツ式の交響曲ならスケルツォが置かれる代わりに、チャイコフスキーはワルツを選んだ。おそらくは宗教から俗世に戻ってきて、楽しく生きることを選んだのであろう。人生も好転してゆき、終結部分ではなんと「運命の主題」もワルツを踊る。

**第4楽章**　序奏付きのソナタ形式。冒頭から「運命の主題」が長調になり、明るい結末が予期される。テンポが早まると、苛烈な第1主題が追い立ててくるが、第2主題は明るく希望に満ちている。「運命の主題」は明るくなったり、また暗くなったりと揺れ動くが、最終的には凱歌のように勝利を高らかに宣言する。

［楽器編成］フルート3（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、弦楽5部。

# 未来に、社会に。
# 豊かさを。

オリックスグループは「豊かな社会」を実現するために、
社会福祉、青少年の育成、環境保全などの分野で支援活動を続けています。

「SANGO ORIX」として、沖縄サンゴ礁移植支援活動を推進しています。

児童養護施設などの子どもたちを、オリックス・バファローズの野球観戦にご招待しています。

世代を超えて地域の人々が子どもに食事や居場所を提供する「子ども食堂」への支援を行っています。

全国の肢体不自由児施設などに、車椅子でそのまま乗車できる福祉車両や送迎用の車両を寄贈しています。

オーケストラコンサートへのご招待企画を実施するなど、音楽の振興に資する活動を行っています。
©K.Miura

ORIX オリックス


Triphony Hall Series
Suntory Hall Series
2024-2025 Season
#655

## 4.19[金]
### サントリーホール・シリーズ
新日本フィルハーモニー交響楽団
サントリーホール・シリーズ 第655回定期演奏会
2024年4月19日(金)19時00分
サントリーホール

## 4.20[土]
### トリフォニーホール・シリーズ
新日本フィルハーモニー交響楽団
トリフォニーホール・シリーズ 第655回定期演奏会
2024年4月20日(土)14時00分
すみだトリフォニーホール

◉ベートーヴェン (1770–1827)

**交響曲第2番 ニ長調 op.36** 約35分

Ludwig van Beethoven: Symphony No.2 in D major, op.36

Ⅰ. Adagio molto – Allegro con brio
Ⅱ. Larghetto
Ⅲ. Scherzo: Allegro
Ⅳ. Allegro molto

―― 休憩20分 ――

◉メンデルスゾーン (1809–47)

**劇付随音楽『夏の夜の夢』op.61 より ＊** 約60分

Felix Mendelssohn Bartholdy: "Ein Sommernachtstraum", op.61, excerpts ＊

| | |
|---|---|
| 序 曲 | Ouvertüre |
| 第1曲 | スケルツォ Scherzo |
| 第3曲 | 合唱付きの歌(ナイチンゲールの子守唄) Lied mit Chor |
| 第5曲 | 間奏曲 Intermezzo |
| 第7曲 | 夜想曲 Notturno |
| 第9曲 | 結婚行進曲 Hochzeitsmarsch |
| 第11曲 | ベルガモ風道化の踊り Ein Tanz von Rüpeln |
| フィナーレ | Finale |

[指揮] 佐渡 裕
Yutaka Sado, Conductor

[妖精パック] ウエンツ瑛士 ＊
Eiji Wentz, Puck ＊

[ソプラノⅠ] 小林沙羅 ＊ [ソプラノⅡ] 林 美智子 ＊
Sara Kobayashi, Soprano Ⅰ ＊ Michiko Hayashi, Soprano Ⅱ ＊

[児童合唱] One Voiceちば ＊ [合唱指揮] 加藤洋朗 ＊
One Voice CHIBA, Children's Chorus ＊ Hiroaki Kato, Chorus Master ＊

[コンサートマスター] 崔(チェ)文洙／伝田正秀
Munsu Choi & Masahide Denda, Concertmaster

台本提供：檀 ふみ
コーディネーター：小栗哲家
舞台監督：井坂 舞
舞台監督助手：林 智子


■主催：公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団
■共催：すみだトリフォニーホール [4/20公演]
■助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人 日本芸術文化振興会
公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団


アラーム付時計、携帯電話等をお持ちのお客様は、演奏中に鳴らないようお確かめください。
演奏途中でのご入場、場内での録音および撮影はかたくお断りいたします。

文化庁

# Profile

©Peter Rigaud c/o Shotview Artists

## 佐渡 裕［指揮］ Yutaka Sado, Conductor

京都市立芸術大学卒業。1987年アメリカのタングルウッド音楽祭に参加。その後、故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。89年新進指揮者の登竜門として権威あるプザンソン国際指揮者コンクールで優勝。95年レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクールで優勝し、「レナード・バーンスタイン桂冠指揮者」の称号を授与される。
これまでパリ管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ケルンWDR交響楽団、バイエルン国立歌劇場管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団など欧州の一流オーケストラに多数客演を重ねている。またエクサンプロヴァンス音楽祭の『椿姫』（パリ管弦楽団）、オランジュ音楽祭の『蝶々夫人』（スイス・ロマンド管弦楽団）、トリノ王立歌劇場では『ピーター・グライムズ』、『カルメン』、『フィガロの結婚』など海外でのオペラ公演も多数指揮。
現在はオーストリアで110年以上の歴史を持つトーンキュンストラー管弦楽団音楽監督を務め欧州の拠点をウィーンに置いて活動している。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウインド・オーケストラ首席指揮者、サントリー「1万人の第九」総監督。
CDリリースは多数あり、『チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番（BBCフィルハーモニック／ピアノ辻井伸行）』、『佐渡裕ベルリン・フィル・デビューLIVE』、『ベートーヴェン「運命」、シューベルト「未完成」』（ベルリン・ドイツ交響楽団）などの海外楽団とのCD、シエナ・ウインド・オーケストラを指揮した『ブラスの祭典』シリーズなどが好評を得ている。最新盤としてトーンキュンストラー管を指揮した19枚目のCD『マーラー：交響曲第4番』を2024年1月にリリース。著書に『僕はいかにして指揮者になったのか』（新潮文庫）、『棒を振る人生～指揮者は時間を彫刻する～』（PHP文庫／新書）、絵本『はじめてのオーケストラ』（小学館）などがある。
2023年4月より新日本フィルハーモニー交響楽団第5代音楽監督に就任。

オフィシャルファンサイト：
http://yutaka-sado.meetsfan.jp

## ウエンツ瑛士 Eiji Wentz

1985年10月8日生まれ、東京都出身。4歳でモデルデビュー。その後テレビ、映画、CMなど幅広く出演。
2005年～2016年2月までは小池徹平とのデュオ「WaT」としても活動。
2018年に演技・語学の留学のため渡英。2020年に日本での本格活動復帰。
TVではMCなどで活躍する傍ら舞台・映画・ドラマにも出演。直近の主な作品「日本沈没-希望のひと-」「湯道」「スコット&ゼルダ」「ショウ・マスト・ゴー・オン」「アンドレ・デジール 最後の作品」。

©NIPPON COLUMBIA

## 小林沙羅［ソプラノ］ Sara Kobayashi, Soprano

東京藝術大学および同大学院修了。2010～15年ウィーンとローマにて研鑽を積む。2012年ブルガリア国立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『愛の妙薬』アディーナで欧州デビュー。多くの新作オペラの初演を務めるほか、2009、13年日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、11年佐渡裕指揮『こうもり』アデーレ、15年および2020年野田秀樹演出『フィガロの結婚』スザンナ、17年藤原歌劇団『カルメン』ミカエラ、18年佐渡裕指揮『魔弾の射手』エンヒェン、19年『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、20年『紅天女』タイトルロール、21年『夕鶴』つう、『千姫』千姫、23年1月井上道義『降福からの道』、7月佐渡裕指揮『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナなど、話題作に続々出演。また、マーラー交響曲第4番などのソリストとして多くのオーケストラとも共演。2019年サードアルバム『日本の詩（うた）』を日本コロムビアよりリリース。2017年第27回出光音楽賞、19年第20回ホテルオークラ賞受賞。日本声楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。大阪芸術大学准教授。

©Toru Hiraiwa

## 林 美智子［メゾ・ソプラノ］ Michiko Hayashi, Mezzo-Soprano

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第1期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンに留学。2003年国際ミトロプーロス声楽コンクール最高位入賞。第5回ホテルオークラ音楽賞受賞。
二期会、新国立劇場を中心に数多くのオペラに出演、2015年には紀尾井ホールにて『オリンピーアデ』のアルジェーネ、日生劇場にて『ドン・ジョヴァンニ』エルヴィーラ役と、初役に挑み卓越した歌唱と抜群の存在感を示した。
チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィなど国内外の指揮者と主要オーケストラに共演を重ね、また、モーツァルトのダ・ポンテ三部作オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』を自らプロデュースするなど人気、実力ともに群を抜くメゾ・ソプラノとして幅広く活動している。
CDは、『赤と黒』『地球はマルイゼ～武満徹：SONGS』、『ベル・エクサントリック～林美智子ベル・エポック歌曲集』をリリース。大阪音楽大学特任准教授。
オフィシャル・ホームページ：https://hayashimichiko.themedia.jp/

## One Voiceちば［児童合唱］ One Voice CHIBA, Children's Chorus
## 加藤洋朗［合唱指揮］ Hiroaki Kato, Chorus Master

合唱指揮者の加藤洋朗の呼び掛けによって結集した、千葉県の東葛地区で活動する3つの合唱団による連合合唱団。2022年7月の新日本フィル定期演奏会で「カルミナ・ブラーナ」に出演した柏少年少女合唱団、流山少年少女合唱団に加え、今回は松戸ユースクワイヤが参加している。
1987年に千葉県柏市で結成された柏少年少女合唱団は、鮎川真理の指導により「明るく、仲良く、楽しく」をモットーに地域の文化活動の他、朝日新聞社「こどもコーラスフェスティバル」全国大会への出場、各種TV番組などにも出演。また、アメリカや中国などへの海外演奏旅行で高い評価を得ている。
近年「子育ての街」として注目される流山市で2018年、加藤洋朗とその音楽家仲間の呼びかけにより、「世界に響く歌声」を目指し結成された流山少年少女合唱団。地域をはじめ広く社会の青少年文化向上に貢献すべく活動を重ねている。
松戸ユースクワイヤは、2021年JCDA北とぴあ合唱フェスティバルのモデル合唱団として結成される。大津康平の指導により地域のイベント出演の他、2023年千葉県合唱アンサンブルコンテスト1位金賞・理事長賞。声楽アンサンブルコンテスト全国大会銅賞。新作初演やオーケストラとの共演など幅広く活動している。



# Program Notes ◉石川亮子［音楽学］

アテネの貴族イジーアスは、娘ハーミアをお気に入りの青年ディミートリアスと結婚させようとするも、ハーミアには恋人ライサンダーがいる。公爵テーセウスはハーミアに父親に従うよう命じる。さもなくば死か、修道女になるか、月の女神ダイアナに身を捧げるか。ハーミアはライサンダーと駆け落ちしようと森に入っていく。森に住むのは、王オーベロンと妃ティターニアを中心とする妖精たち。悪戯好きの妖精パックは、オーベロンの命令を勝手に勘違いして、人間世界も妖精世界も大混乱に──。

シェイクスピアの『夏の夜の夢』には、イギリスのフォークロア、ギリシア・ローマ神話、キリスト教の要素が入り混じっている。そして物語は、ハーミアが自分の好きな人と結婚したいと言ったことから始まる。シェイクスピアの時代から400年以上を経た今でも、恋する者の気持ちは変わらない。「全く想像力でいっぱいなのだ／狂人、恋人、そして詩人たちは」（第5幕第1場、テーセウスの台詞）。

### ■ ベートーヴェン：交響曲第2番 ニ長調 op. 36

30代前半の意欲作 ►

第3番「英雄」、第5番「運命」、第6番「田園」。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）の9曲の交響曲において、第3番とともに中期の「傑作の森」の扉が開かれたと考えるのは、音楽史における一致した見解であろう。第3番の初演に先立つこと約1年前の1803年4月5日、作曲者自身の指揮によって公開初演された第2番は、それ以前の初期の交響曲ということになる。ボンからウィーンに移住。ピアニスト、作曲家として注目を集めるようになったベートーヴェンは、1800年秋頃から第2番のスケッチを開始し、1802年春には完成。ただし、その後も初演に向けて、あるいは1804年3月の初版に向けて、かなりの推敲が重ねられていったとされる。

あふれる高貴さ、エネルギー ►

その間の1802年10月、耳の病気の悪化に苦悩するなかで、いわゆる「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれたことは、もしかしたら驚くべき事実かも知れない。なぜなら第2番の交響曲は、人生の危機や絶望といったものとは正反対の性格を持っており、ベルリオーズの言葉を借りれば、「この作品においては、すべてが高貴で、エネルギッシュで、堂々としている」。人生の悲劇に直面した時にこそ、明るく陽気な音楽を生み出す──。こうした創作の傾向は、ベートーヴェンの交響曲のなかで最も楽天的とされる第8番にも指摘されることである。

伝統のなかの革新 ►

曲は慣例に従った4楽章からなるが、ひとつのモチーフ（順次上行もしくは下行する4音）から全ての楽章の主題が導き出され、第3楽章にはベー

トーヴェンの交響曲としては初めてスケルツォが採用される等、伝統を受け継ぐなかに様々な革新が力強く打ち出されている。

4楽章構成と音楽の特徴

**第1楽章**は33小節の表情豊かな序奏によって開始される。主部はソナタ形式による、ベートーヴェンに典型的なアレグロ・コン・ブリオの音楽。第1主題がヴィオラとチェロ、第2主題がクラリネットとファゴットで提示される等、オーケストレーションの工夫も本作の特徴のひとつである。

**第2楽章**はゆったりとした3拍子に乗せて、楽器間の親密な対話とともに美しい旋律が穏やかに流れる。

**第3楽章**は従来のメヌエットとは一線を画するスケルツォ楽章。それは極端な強弱の交代を繰り返す開始部分によく示されており、中間のトリオも活気ある表情をみせる。

**第4楽章**はソナタ形式と分析されるが、冒頭に聴かれるユニークな第1主題が曲中そのまま何度か登場するのは、ロンド形式として構想された名残りであると説明される。

[楽器編成]フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部。

## ■ メンデルスゾーン：劇付随音楽『夏の夜の夢』op.61 より

※歌詞対訳は16～17ページをご覧ください

シェイクスピアの名喜劇をもとに

イギリス・ルネサンスを代表する劇作家として、悲劇、喜劇、歴史劇と様々なジャンルを手がけたウィリアム・シェイクスピア（1564～1616）。主人公の死で終わる悲劇に対して、主人公たちの結婚で終わる喜劇のパターンは、比較的初期に書かれた『夏の夜の夢』も例外ではない。アテネの公爵テーセウスと婚約者の女王ヒポリュテ。ライサンダーとハーミア、ディミートリアスとヘレナの4人の若い恋人たち。公爵の結婚祝いに芝居を上演しようとする職人たち。妖精の王オーベロンとその妃のティターニア、そして妖精たち。これら4つの層を行き来しながら、A Midsummer Night's Dream、すなわち夏至祭（洗礼者ヨハネの誕生の祭日である6月24日）の前夜のように羽目を外した、てんやわんやの夢物語が繰り広げられる。

序曲を作曲した17歳から

この5幕の戯曲にオペラではなく劇付随音楽として、フェリックス・メンデルスゾーン（1809～47）は曲を付けていった。作品の成立経緯には、メンデルスゾーンの栄光の日々が映し出されている。少年時代、姉ファニーと一緒に『夏の夜の夢』に夢中になったメンデルスゾーンは、17歳の年の1826年に序曲を作曲。すぐに大評判となり、各地で再演が重ねられていった。そしてその15年後の1841年、プロイセン国王の招きでベルリンに赴任したメンデルスゾーンは、宮廷劇場で上演される劇のための音楽を作曲することを命じられる。そのなかの1作が『夏の夜の夢』であり、1843年夏に12曲が完成。同年秋の上演は大歓声に包まれ、メンデルスゾーンの名声は揺るぎないものとなったのである。

創作における長年の断絶は、作品からは全く感じられないだろう。それはメンデルスゾーンが早熟の天才であったからだけでなく、序曲に登場するメロディーが後の音楽にも盛り込まれていることが大きい。以下に各曲について、ストーリーにも触れながら紹介していこう。

曲の構成と音楽の特徴

**序曲**はソナタ形式による。冒頭の木管楽器とホルンによる4つの和音（「妖精の和音」）が、観客を一気に妖精の世界へと導く。妖精の戯れを表わす第1主題と、ライサンダーとハーミアの恋する若者たちを示す第2主題。小結尾部には、結婚の宴で職人たちが踊るベルガモ風の舞曲が聴かれる。

**第1曲：スケルツォ**は第1幕の後に演奏される。飛び交う妖精たち。劇中では、この曲の終わりに妖精パックが姿を現わす。

**第3曲：合唱付きの歌**は妖精たちの歌。オーベロンとティターニアは夫婦喧嘩の真っ最中。妖精たちは「さあ女王さま、子守唄でおやすみなさい！」とティターニアを眠らせる。

**第5曲：間奏曲**は第2幕の終了後に演奏される。間違えてパックに目に惚れ薬を塗られ、すっかりハーミアの幼なじみのヘレナに恋してしまうライサンダー。心変わりを嘆くハーミアを美しく情熱的に描く前半と、芝居の練習に森にやって来る職人たちの行進曲の後半からなる。

**第7曲：夜想曲**は森を象徴するホルンの旋律に始まる。第3幕で完全にすれ違ってしまった4人の若者たちが、ロマンティックな夜の音楽に抱かれて眠る。パックはライサンダーの目に魔法が解ける薬を塗る。

**第9曲：結婚行進曲**は第4幕の終了後に演奏される。テーセウスとヒポリュテ、ライサンダーとハーミア、ディミートリアスとヘレナの3組の結婚が祝される。あまりに有名な曲ながら、中間のトリオもなかなかに優雅なもの。

**第11曲：ベルガモ風道化の踊り**は序曲と同じ舞曲で、職人たちは祝宴の芝居に続いて踊りを披露する。

**フィナーレ**は第12曲の後半部分。妖精たちの歌には、「妖精の和音」や序曲の第1主題が重ねられる。人間たちが眠る夜12時を過ぎると、妖精たちの時間。妖精たちが飛び立って静かに曲は終わる。

[編成]フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、シンバル、語り、ソプラノI、ソプラノII独唱、児童合唱、弦楽5部。